

**NISSUI
CORPORATE
PROFILE
2023**



まだ見ぬ、食の力を。

MISSION

私たちを突き動かすもの。
それは「人々により良い食を
お届けしたい」という志。

海で培ったモノづくりの心と
未知を切り拓く力で、健やかな生活と
サステナブルな未来を実現する
新しい“食”を創造していきます。



まだ見ぬ、食の力を。



創業以来変わらぬ

「人々により良い食をお届けしたい」という志のもと、新しい“食”の可能性を追求する。

ニッスイの歴史は、1911年、1隻のトロール船から始まりました。以来110余年にわたり、水産事業のみならず食品事業やファインケミカル事業など幅広い事業を展開。今ではグローバルに100社近くのグループ企業を有するまでに成長しました。

近年、おいしさや健康、環境への配慮やサステナブルな未来など、人々が食に求めるものは多様化する中、世界に広がるニッスイグループ企業とともに、ニーズに合わせた食をお届けする事業展開を進めています。今後も自然や社会環境が激しく変化し、これまで見いだされていなかったさまざまなニーズにお応えしていくことが必要になるでしょう。

私たちニッスイグループでは2022年に新たなミッションを定め、2030年のありたい姿を「人にも地球

にもやさしい食を世界にお届けするリーディングカンパニー」として、長期ビジョン(Good Foods 2030)を設定しました。2022年12月には社名を株式会社ニッスイに変更、リブランディングを進めています。

ありたい姿を実現させるため、グループ一丸となって新しい“食”の創造に挑戦、失敗を恐れることなく、海で培ったモノづくりの心と未知を切り拓く力で、社会課題解決につながる新しい“食”を創り出し、皆さまにお届けします。

私たちの新たな挑戦は始まったばかりです。創業以来受け継がれてきた「人々により良い食をお届けしたい」という志を胸に抱き、食の新しい可能性を追求し続けます。

2023年7月

代表取締役 社長執行役員
最高経営責任者 (CEO)

浜田晋吾

長期ビジョン「Good Foods 2030」

人にも地球にもやさしい食を世界にお届けするリーディングカンパニー

ニッスイは、ミッションをあらためて定義したうえで、長期ビジョン「Good Foods 2030」として2030年のありたい姿を「人にも地球にもやさしい食を世界にお届けするリーディングカンパニー」と決めました。2030年に向かって「事業ポートフォリオマネジメント強化」「サステナビリティ経営推進」の2軸で企業価値の向上に取り組めます。



中期経営計画「Good Foods Recipe1」(2022～24年度)

6つの基本戦略に則って「もうワンランク上へ行くための変革」を進めます。



中期経営計画達成に向けた6つの基本戦略の詳細



中期経営計画KPI

【財務KPI】

ROIC 5.5%以上
事業の稼ぐ力を強化

2024年度目標(中計KPI)

売上高	7,900億円
営業利益	320億円

ROE 10.0%以上
適切な資本政策

【サステナビリティKPI】

創出価値	重点テーマ	2024年度目標
環境価値	気候変動への対応と海洋環境の保全	CO2排出量(Scope1-2) 10%削減(2018年度比)
	持続可能な調達	プラスチック使用料※10%削減(2015年度比)
	健康課題の解決	当社指定の健康領域商品売上 1.3倍の拡大(2021年度比)
社会価値	健康課題の解決	従業員エンゲージメント※10%のスコア向上(2021年度比)
	多様な人財の活躍	女性幹部職比率※10% 執行役員、部長の女性比率※10%

※対象範囲はニッスイ個別

VALUE 1 ニッスイのバリューチェーン

水産・食品・ファインケミカルの主要3事業のシナジーで素材の価値を最大化し、世界中の人々に新しい“食”を提供してまいります。

世界のあらゆる
世代のお客さまへ

ニッスイグローバルリンクス

→ p.07-08

資源アクセス



素材の力を引き出すR&D



バリューチェーンを支える高度な技術や知識



サステナブルな
水産資源
アクセス

高度な
養殖技術

食品事業

水産事業

ファイン
ケミカル
事業

R&D

東京イノベーションセンター
("食"の基礎研究~事業応用)

開発部門
オープンイノベーション

中央研究所大分海洋研究センター
(養殖に関する基礎研究~事業応用)

物流

全温度帯物流、
水産物ハンドリング

加工・生産

品質保証
GFSI認証取得

- 切り身、漬け魚
- 鮮魚
- すり身加工食品
- 冷凍食品
- チルド食品
- 健康領域商品
速筋タンパク等
- 魚油・魚粉
- 代替タンパク
- 機能性食品 イマーク等
- 機能性油脂 EPA・DHA
- 医薬品原料

ホールセール
リテール

食品メーカー

健食メーカー

製薬メーカー



取り扱い天然魚271万トン中
持続可能な調達比率 **71%**

養殖拠点 **71**カ所 (国内32、海外39)※1

グローバルサプライチェーン
(48カ国以上から原料を調達)



陸上養殖・大規模沖合養殖など
高度な養殖技術

人工種苗と育種による差別化
完全養殖 黒瀬ぶり

健康、持続可能な食糧に対応
代替タンパク製品の開発



高純度EPAの
高度精製技術の確立

スケソウダラ研究から生まれた
速筋タンパク



家庭用水産調理冷凍食品
全米シェアNo.1※2

GFSI※3 認証取得
加工・生産拠点数 **31**カ所

EPA医薬品原料の
グローバルサプライヤー



家庭用冷凍おにぎり市場
日本 メーカーシェアNo.1※4

家庭用ちくわ市場
日本 メーカーシェアNo.1※5

※1 連結子会社を対象とし、1養殖エリアを1拠点としてカウント
※2 IRI 米国家庭用水産調理冷凍食品カテゴリー 金額シェア 2021年8月~23年4月
※3 GFSI (Global Food Safety Initiative):
世界的に展開する食品企業が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化のため、
協働して食品安全管理規格の承認等を行う民間団体
※4 (株)インテージ SRI+ 家庭用冷凍おにぎり市場 金額シェア 2022年4月~23年4月
※5 (株)インテージ SRI+ 家庭用ちくわ市場 金額シェア 2021年11月~23年4月

VALUE 2

ニッスイグローバルリンクス



ニッスイグローバルリンクス。それは「人々により良い食をお届けしたい」という志に共感し、独自の強みを活かして事業を展開している会社が互いに連携するグローバルグループです。互いにつながり協働することで、世界の資源と食卓を結ぶグローバルリンクス、そして、それぞれの地域における多様な機能を結びつけるローカルリンクスへと発展していきました。個々の会社が資源アクセスから商品のお届けに至る各プロセスで強みを発揮し、グローバルに協働することで、付加価値の高い商品の提供を実現します。

ニッスイグループの事業規模 (2023年3月31日現在 現在)

連結売上高
7,681 億円

海外売上高比率
38.9%

グローバルネットワーク
26 カ国
※ニッスイの子会社と本マップ上の企業、これらの関係会社が拠点を置く国の数。

連結従業員数
9,515 人



(2023年3月31日 現在)

水産事業

漁業・養殖から加工、販売まで、
水産物のグローバルバリューチェーンを構築し、
水産資源の新しい価値を創出しています

世界に広がるグローバルリンクスと各域内のローカルリンクスの協働により、漁業・養殖などを通じて水産資源へアクセス。これまで培ってきた水産物を余すところなく利用する加工技術や商品開発力で、鮮魚・冷凍魚の販売のみならず、お客さまにとって使い勝手の良い形態に加工する「食材化」の取り組みを進めています。

水産物の需要が世界的に拡大するなか、天然資源には限りがあり、持続可能な養殖事業が担う役割はますます高まっています。ニッスイグループでは、南米での高品質なトラウト・ギンザケの完全養殖、国内でのブリ・ギンザケなどの完全養殖に取り組むとともに、養殖魚用配合飼料の生産・販売も行っています。



食品事業

社会やお客さまのライフスタイルの変化を的確にとらえた、
おいしく簡便な加工食品の提供を通じて、
新しい“食”を創造しています

国内外グループ企業の原料調達力や加工生産技術の強みを生かしたニッスイ独自の製品により、食品事業は成長を続けています。

国内では家庭用・業務用冷凍食品、缶詰・びん詰、フィッシュソーセージ・練り製品などのすり身製品を販売。海外では、北米の家庭用水産冷凍食品でトップのシェアを有するゴートンズ社や、フランスのチルド食品のリーディングカンパニー シテ・マリン社、白身魚製品を手掛けるイギリスのスリー・オーシャンズ・フィッシュ・カンパニー社などが各域内で事業展開しています。

北米



ヨーロッパ



日本



ファインケミカル事業

高度な精製加工技術とグローバルサプライチェーンで、機能性脂質(EPA・DHA)をあらゆる世代にお届けします



ファインケミカル総合工場
鹿島医薬品工場

ニッスイは1980年代から、40年以上にわたってイワシなどの青魚に含まれるEPAの研究や生産・商品化に取り組んでいます。EPAの高度精製技術を確立し、閉塞性動脈硬化症や高脂血症の治療薬として承認を得て、EPAを医薬品原料として生産・供給してきました。2021年にはFDAの認証を取得し、EPA医薬品原料のグローバルサプライヤーとして米国への輸出を開始しました。また、EPAの持つ多様な作用に着目し、機能性原料としても生産・供給、さまざまな特定保健用食品・機能性表示食品・サプリメント・一般食品などにも応用しています。そのほか、DHAを乳幼児用粉ミルク等の食品や機能性表示食品の原料として国内外に供給するなど、水産資源由来の機能性素材を手掛けています。

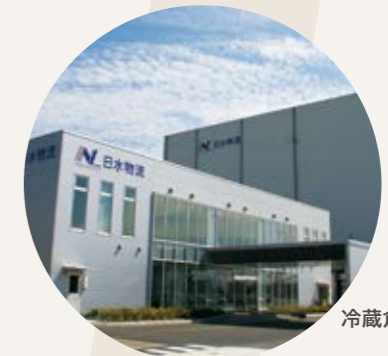
物流事業

全国の冷凍・冷蔵保管倉庫を起点とした全温度帯物流に対応しています

低温温度帯の食品や水産物の保管・取り扱いで培った豊富な経験と実績をもとに、ニッスイグループの物流事業を担う日水物流株式会社では、-50℃の超低温から冷凍・冷蔵に加え常温帯までの幅広い温度帯に対応。ニッスイグループの品質管理基準にもとづき、港湾地区に立地する冷蔵倉庫を中心に、主要都市間を結ぶ全国ネットワークも構築しています。

並行して、輸配送の効率化も目指し、同業他社とともに食品の共同物流を推進。グループの運送事業を担うキャリアネット株式会社では、トレーラー輸送の活用にも取り組んでいます。

冷蔵倉庫の脱フロン化、フェリーなど海上輸送を活用したモーダルシフトの推進によるCO2排出量削減に努めるなど、環境面の社会課題の解決にも積極的に取り組んでいます。



冷蔵倉庫事業



輸配送事業



通関業務



ニッスイの歩み 110余年にわたり水産資源から多様な価値を創造し続けた歴史

創業～ 1911～

水産業の工業的発展を目指して

- 1911年 トロール船「湊丸」を英国から回航して田村汽船漁業部を創業
- 1920年 早鞆水産研究会を設立
- 1930年 船内急速冷凍装置の実用化
戸畑漁港への移転完了
- 1934年 日産コンツェルンに参画
- 1937年 日本水産となる

>>> 創業から25年で
世界最大級の水産会社へと成長



トロール船「湊丸」



計画当初の戸畑漁港

戦後の復興から 1940年代～

規模拡大へ

- 1943年 日本海洋漁業統制株式会社の設立
- 1952年 「ツナソーセージ」の本格生産開始
- 1958年 冷凍食品の本格生産開始
- 1967年 洋上冷凍すりみの本格生産開始
- 1968年 「焼きちくわ」の全国発売開始
- 1978年 エムデパス社(チリ)設立

>>> 陸上・海上事業に設備投資して、
高度成長期に規模を拡大



焼きちくわの製造工程



「ツナ・ソーセージ」

低迷期～ 1970年代～

事業構造の転換を模索

- 1977年 米ソが200海里法施行、以降世界の漁場から撤退
- 1980年 千葉大学とEPAの疫学調査開始
- 1987年 養魚用配合飼料の生産開始
- 1988年 サルモネス・アンタルティカ社(チリ)を取得
- 1989年 家庭用冷凍食品の焼きおにぎりを発売
- 1993年 中央研究所大分海洋研究センター完工



>>> 遠洋漁業からの撤退で苦難の時期。
新規事業に着手するも、業績不振が続く



サルモネス・アンタルティカ社(チリ)の加工工場



中央研究所大分海洋研究センター

グローバル サプライチェーンを構築 2000年代～

- 2001年 シーロード社に資本参加
ゴートンズ社(米国)を取得
- 2004年 黒瀬水産を設立、国内ブリ養殖事業に参入
- 2007年 シテ・マリン社に資本参加
- 2011年 東京イノベーションセンター竣工
- 2017年 ファインケミカル総合工場鹿島医薬品工場竣工
- 2022年 株式会社ニッスイに商号変更

>>> 「水産資源をお客さまの価値に変換する」を目指し、
グローバルなグループ経営を展開



ゴートンズ社(米国)の
2001年当時の商品ラインナップ



サルモネス・アンタルティカ社
「FIVE STAR」ブランド

ニッスイグループの概要

ニッスイグループ

連結従業員数:9,515名
連結売上高:7,681億円
連結営業利益:244億円
グループ会社数:89社
(2023年3月31日 現在)

株式会社ニッスイ

105-8676 東京都港区西新橋1-3-1西新橋スクエア
創業:1911年
設立:1943年
資本金:30,685百万円

主な海外グループ会社

- 北米
 - ニッスイUSA社 ■
 - ユニシー社 ■
 - F.W.プライス社 ■
 - グレイシャー フィッシュ カンパニー社 ■
 - ゴートンズ社 ■
 - ブルーウォーター・シーフーズ社 ■
 - キング・アンド・プリンス・シーフード社 ■
- 南米
 - ニッスイ・アメリカ・ラティーナ社 ■
 - エムデパス社 ■
 - サルモネス・アンタルティカ社 ■
 - NALペルー社 ■
 - ノードシー社 ■
- ヨーロッパ
 - ニッスイヨーロッパ社 ■
 - ノルディック・シーフード社 ■
 - J.P.クラウセン社 ■
 - フラットフィッシュ社 ■
 - リーガル・フィッシュ社 ■
 - シテ・マリン社 ■
 - ケラナ・プロダクションズ社 ■
 - キャップ・オーシャン社 ■
 - アリオティス社 ■
 - MITI社 ■
 - スリー・オーシャンズ・フィッシュ・カンパニー社 ■
 - ユーロパシフィック社 ■

- アジア・オセアニア
 - ニッスイタイランド社 ■
 - ニジコ社 ■
 - タイデルマール社 ■
 - ニッスイロータスベトナム社 ■
 - 青島日水食品研究開発有限公司 ■
 - 大明食品工業股份有限公司 ■
 - シーロード社 ■
 - オーストラリアン・ロングライン社 ■

主な国内グループ会社

- 北海道地区
 - 株式会社北海道日水 ■
 - 稚内東部株式会社 ■
 - 北海道ファインケミカル株式会社 ■
 - 株式会社マルサ笹谷商店 ■
- 中国・四国地区
 - 弓ヶ浜水産株式会社 ■
 - 共和水産株式会社 ■
 - 東海漁業株式会社 ■
 - 共和産業株式会社 ■
 - 広島水産株式会社 ■
 - クニヒロ株式会社 ■
 - 株式会社金子食品 ■
- 東北地区
 - モガミフーズ株式会社 ■
 - 株式会社ハチカン ■
- 関東・甲信越地区
 - 横浜通商株式会社 ■
 - 株式会社アクアプラットフォーム ■
 - 山津水産株式会社 ■
 - 日本クッカーリー株式会社 ■
 - 株式会社船橋デリカサービス ■
 - 株式会社チルディー ■
 - 日水物流株式会社 ■
 - 東京水産運輸株式会社 ■
 - ニッスイ・エンジニアリング株式会社 ■
 - 日本海洋事業株式会社 ■
 - 株式会社水産流通 ■
 - 三共水産株式会社 ■
- 九州地区
 - 博多まるきた水産株式会社 ■
 - 金子産業株式会社 ■
 - ファームチョイス株式会社 ■
 - 黒瀬水産株式会社 ■
 - 西南水産株式会社 ■
 - 株式会社北九州ニッスイ ■
 - 日豊食品工業株式会社 ■
 - 株式会社琉球デリカサービス ■
 - ニッスイマリン工業株式会社 ■
 - 長崎造船株式会社 ■
 - 臨海研究株式会社 ■
- 中部・関西地区
 - 株式会社北陸フレッシュフーズ ■
 - キャリアネット株式会社 ■
 - 株式会社十味惣 ■
 - 株式会社大水 ■
 - ケイ低温フーズ株式会社 ■

- 水産事業
- 食品事業
- ファインケミカル事業
- 物流事業
- その他

(2023年6月30日 現在)

グループ会社の詳細は
ニッスイWebサイトの
「グループ会社一覧」へ



株式会社ニッスイ

2023年7月

ニッスイ公式サイト



<https://www.nissui.co.jp/>



本誌は環境へのやさしさに配慮して、
FSC® 認証紙と植物油インキを使用しています。